今月の表紙

十八親和銀行

佐世保本店ビル 懐霄館（かいしょうかん）

今月の表紙になった建物をご紹介します!

前川 雄紀（まえかわ・ゆうき）
佐世保県北本部
主任調査役
■趣味：ゴルフ
■休日の過ごし方：テレビで野球観戦

私たちがお答えします!

山本 康一（やまもと・こういち）
佐世保県北本部
■趣味：釣り
■休日の過ごし方：釣りに行っています!

Q どんな建物ですか？

山本　十八親和銀行 佐世保本店ビル（旧親和銀行本店）は、建築家・白井晟一の代表作です。1967年の第1期（本館）、1969年の第2期（本館）、1975年の第3期（懐霄館）にわたって、延べ10年を超える歳月をかけて完成しました。現在も十八親和銀行 佐世保本店営業部の窓口として機能する第1期棟は、黒い円柱の上に白い大理石の塊が載る特徴的な建物です。これは、1955年、白井が誰からも頼まれずに取り組んだ原爆・核を正面から取り上げた美術館構想「原爆堂計画」がその原型となっているといわれています。

右から本館第1期、本館第2期、後ろの高層建築が懐霄館

Q 建築家・白井晟一（しらいせいいち）はどんな人？

前川　白井晟一（1905年～1983年）は、京都市出身です。和風と洋風の建築が融合した独特な作風で、「哲学の建築家」とも称されます。

Q 建物の特徴は？

山本　佐世保本店ビルでは建物全体を通じて楕円のデザインが主要なモチーフとなっています。天井照明、天窓、エレベーターのボタン、鏡など、建物の中にある楕円を探してみてください。また、白井晟一はエンブレムのデザインにも秀でた建築家です。建物には親和銀行専用のエンブレムがデザインされています。白井晟一が細部にまでこだわり抜いた建築デザインは、見るものを惹きつけ、その美しさと深遠さに感動を覚えます。

懐霄館のエンブレム

装飾の施された丸鏡

楕円の夜間金庫

ラテン語のメッセージ

曲線が美しい螺旋階段に注目

山本　本館のお客さま用階段は、下から上まで途切れることのない継ぎ目のない手すりになっています。

ゆるやかな曲線が続く螺旋階段

レリーフを移設

前川　親和銀行の前身・旧佐世保商業銀行本店表通りに使用されていた岸崎夜光（きしざきやこう）のレリーフは白井晟一の意向により、本館4階に移設されています。

4階の屋外レリーフ

Q 懐霄館（かいしょうかん）について教えてください。

山本　高さ約40m、11階建て、まるでヨーロッパの教会のような巨大な塔です。1975年の竣工当時はコンピューターを中心とした電算事務センターの役割を担っていました。外壁工事にあたっては1日1段、職人たちの手によって一つ一つ8カ月の時間を要して積み上げられたといわれています。

11階 佐世保港を見渡せる展望室。船の操舵室を模した佐世保らしい意匠

心地よい空間のサロン。竣工時は美術品が飾られていた

壁ではなく、金属のボールチェーンを吊り下げて空間を区切る手法

9階ホール。照明は円形のデザインを採用

エントランスホールには「泉」を設置。波紋のような絨毯も特徴的

Q 建物の見学はできますか？

前川　アーケード街から外観をご覧いただくことや、佐世保本店営業部にお立ち寄りいただくことは可能です。しかし、現役の建物である為、佐世保本店の内部や懐霄館は一般公開しておりません。その代わり、佐世保本店営業部のATMコーナーの隣に展示スペース「白井晟一と親和銀行」を開設しています。本スペースでは、普段見ることのできない建物内部の写真も展示しています。入場無料・自由に見学できます。本展示スペースを通じて、佐世保と共に歩んできた佐世保本店を身近に感じていただければと思います。

展示スペース「白井晟一と親和銀行」

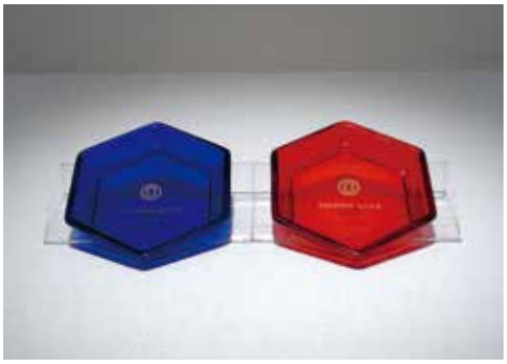
住所：長崎県佐世保市島瀬町10-12
開放時間：平日7:00～23:00、土日祝8:00～21:00
（ATMコーナーと同じ）

十八親和 アートギャラリー
Juhachi Shinwa Art Gallery

学芸員便り

特別寄稿

白井晟一による親和銀行建築



大波止支店建設時に白井晟一がデザインしたとされる灰皿

建築家・白井晟一

佐世保市の中心部に位置する十八親和銀行佐世保本店（旧親和銀行本店）は建築家・白井晟一の代表作のひとつとして知られています。

白井の建築家としての歩みは、日本画家であった義兄、近藤浩一路（こんどうこういちろ）の自宅兼アトリエ（※1）の設計打ち合わせを担当したことに始まります。その後、個人住宅から善照寺（ぜんしょうじ）本堂（東京都）、秋ノ宮村役場（秋田県）、渋谷区立松濤（しょうとう）美術館（東京都）などの公共建築まで幅広く手掛けていきます。またその一方で、書籍装丁の仕事や顧之昏元（こしこんげん）と号した書、エッセイなど、独自の美意識に基づいた多彩な作品を数多く残しています。

当行の建築では、1963年に東京支店（旧親和銀行東京支店、現存せず）（※2）と大波止支店（長崎市）、3期10年に及ぶ大工事を経て1975年に完成した佐世保本店・懐霄館（旧親和銀行本店）が白井の設計により建設されました。この当行と白井の縁は、広い交友関係を持つ白井の義兄である近藤が、旧親和銀行の北村徳太郎（きたむらとくたろう）会長に白井を紹介したことに始まったと言われています。

（※1）後に所有者が変わり、「河村邸」として紹介される建物
（※2）銀座に建設された。所有者が変わった後、2006年に解体

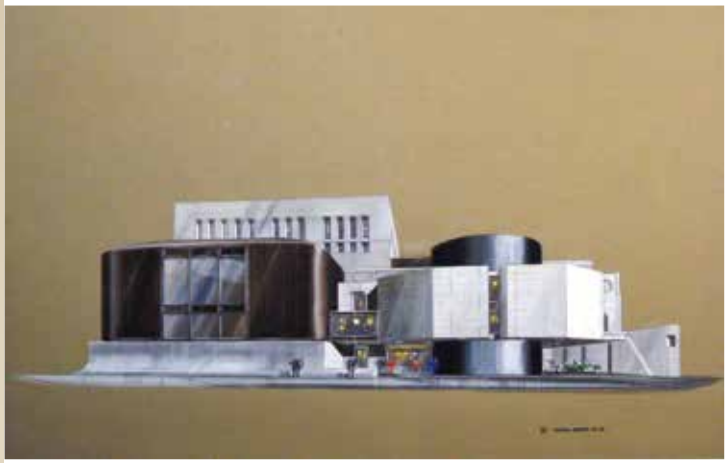
アートギャラリー所蔵 白井晟一関連作品

当館が所蔵する美術品の多くは昭和期に収蔵され、懐霄館の展示室などで公開されてきたものです。その中で

近藤浩一路《渓の音》　当館での展示風景

1.2.3.昨年開催した特別企画展「白井晟一と親和銀行～邂逅する作品たち」展示風景。2.3.の展示作品は全て白井晟一建築研究所（アトリエNo.5）所蔵 ／
4.白井晟一の書3点（当館所蔵）／**5.6.**北村徳太郎会長の書（当館所蔵）

白井晟一関連として挙げられるものには、《本店完成図》（作画：竹中工務店）、《大波止支店設計図》、白井晟一の書《澄霊》、近藤浩一路の大作《渓の音》などがあります。この中で《本店完成図》（左絵参照）を見てみると、画面右端に第1期（本館）、左端に第2期（本館）が描かれていますが、それらの背後に聳える第3期の懐霄館はまだ描かれていません。そして本図の右端は現在、ATMコーナーですが、当時は車の駐車スペースであったことがわかります。



親和銀行本店完成図　作画：竹中工務店

昨年に開催した特別展「白井晟一と親和銀行～邂逅する作品たち」では、これら当行の所蔵品に加えて、白井晟一建築研究所（アトリエNo.5）からお借りした、銀行名のレタリング原画や原爆堂計画の初期スケッチなど貴重な作品資料を展示、公開しました。

白井による一連の親和銀行建築と当館に残る美術品の歴史を紐解くと、半世紀の時を越えて伝わる奇しき巡りあわせが見えてきます。

（十八親和アートギャラリー学芸員　藤松 綾子）

十八親和アートギャラリー

鑑賞無料

［開館時間］10:00～16:00（入館は15:30まで）
［休　館　日］日・月・祝日、年末年始（12/30～1/4）
※土曜日が祝日の場合は開館

長崎県佐世保市島瀬町4-24 十八親和銀行島瀬ビル1F
TEL0956-23-4856
西肥バス島瀬町バス停から徒歩3分
JR佐世保駅から徒歩約20分